

# 兵庫県立 考古博物館 NEWS



Hyogo Prefectural  
Museum of  
Archaeology



2018 Spring-Summer

県政150周年記念事業  
特別展

## 兵庫 山城 探訪

平成30年春夏号

- 特別展「兵庫山城探訪」 ..... 2
- ◆開館10周年記念座談会「考古博物館 誕生」 ..... 4
- ◆企画展「ひょうごの五国のはじまりを探索」 ..... 6
- ◆学芸員が選ぶイチオシ館藏品「家紋を施した三田城の軒平瓦」 ..... 6
- ◆縄文時代の作り方〜カラムシってなあに?〜 ..... 7
- ◆東日本大震災復興支援職員現地報告「迅速な復興を目指して」 ..... 7

県政150周年記念事業

特別展 「兵庫山城探訪」

期間：平成30年4月21日(土)～6月24日(日)

兵庫県には姫路城や竹田城など名城として全国的に知られた城郭が多く、国指定史跡の城郭は18箇所に上ります。これは近畿地方では最も多く、全国的にみても北海道に次ぐ数になります。まさに兵庫はお城の県なのです。

加えて平成29年10月には佐用町の利神城が麓の平福御殿屋敷跡を含めて新たに国指定史跡となりました。

そこで本展は展示室で県内の名城を巡ることを主題に、山城の歴史や構造を紹介し、実際の山城を探訪する上で役立つ情報を満載した展示としました。

山城探訪ガイドとしてお気軽にご観覧下さい。



利神城の山麓御殿、平福御殿屋敷の鬼瓦

(1) 石垣の城、日本代表！

～豊臣後期から江戸初期の山城～

慶長期的前半(1596～1610頃)は、秀吉による朝鮮侵攻から関ヶ原合戦後の築城ラッシュに続く激動期です。この期間は日本の城郭にとって最も技術が発展する時期にあたり、竹田城に代表されるように見事な構造を備えた城郭が多数あります。

特に兵庫県ではこの時期の国指定史跡である竹田城・利神城・洲本城・有子山城・八木城の5城が学術的にも貴重なものです。そこでこの5城を通して慶長期兵庫の山城の魅力を紹介します。

この時期に築かれた山城は石垣の発達が著しく、10m近い高さで独特の優美さを持っています。石材も大きな石材を粗割りしただけの野趣に富んだもので、山城に多くの人を引き付ける核心となる景観を持ちます。



竹田城の石垣群、中央頂部が天守台

(2) 百花繚乱 多彩な山城の世界

～国指定史跡と兵庫～



どっしりとした山容の置塩城

竹田城は全国的に注目が集まっていますが、このほかにも兵庫県には多様な山城があります。それらを戦国期と織豊期前期の山城に分けて紹介します。

戦国期の山城では、この時期を代表する守護大名たちの山城があります。

置塩城や白旗城、此隅山城は南北朝時代から戦国時代の地域史において重要であるばかりなく、学術的にも貴重な城跡です。しかし竹田城と違って樹木に覆われその本当の魅力は見落とされがちです。そこで展示では見落とされがちな箇所も含めて見どころを紹介し、草木に埋もれた山城の魅力を紹介します。

次に、織豊期前半(天正7～天正期末(1579～1592)の山城です。この時期の山城は石垣や建物に著しい発展が見られますが、高石垣を築く技術は過



渡期で慶長期前後の山城に比べると大規模ではありません。

そして、石材の確保や石垣を築く技術に限界がみられますが、よくみると限られた技術を巧みに工夫した技巧や山城ごとの多様性に富む点で独特の時期といえます。なにより石垣技術の発展を見る上で学術的に貴重な遺構が多数あります。

国史跡である黒井城・八上城のほか県史跡の岩尾城を紹介します。



黒井城の石垣

### (3) 山城の画期と終焉

#### ～文書から見る城郭政策～

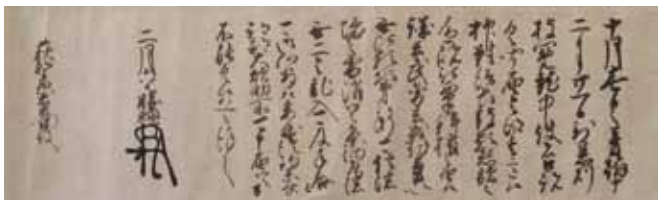
天正8年(1580)の秀吉による城割令は播磨における戦国時代の終焉を告げる重要な文書となりました。これによって播磨の城郭は織豊政権がその配置を決定することになりました。

一方、元和一国一城令(元和元年 1615)の後に出了た池田家文書は近世城郭が軍事の城から政治の府へと変化する時代を象徴する文書です。これ以降、大名たちは本城以外に城郭を持つことができなくなるのです。

そして、この2つの文書は前者が山城が土の城から石垣の城へとかわる画期となり、後者が山城築城の終焉を示す画期を表すものでもあるのです。

このほか、「武田勝頼書状」は丹波の荻野氏が勝頼と連携を計ろうとしたもので、この時期の戦国領主達の生き様を見る上で貴重なものです。

(学芸課 山上雅弘)



「武田勝頼書状」(赤井文書 個人蔵)

## 《講演会・イベント情報》

### ☆講演会

会 場：当館講堂

時 間：13:30～15:00

定 員：120名

参加費：無料

#### ●第1回 4月21日(土)

講演会「兵庫山城探訪へのいざない」

山上雅弘(当館学芸員)

#### ●第2回 5月12日(土)

城跡解説会「現場中継 洲本城」

山上雅弘(当館学芸員)

金田匡史(洲本市教育委員会)

#### ●第3回 5月26日(土)

城跡解説会「現場中継 竹田城」

山上雅弘(当館学芸員)

中川京太郎(朝来市教育委員会)

#### ●第4回 6月2日(土)

講演会「登ろう・楽しもう“山城歩き”」

西股総生(戦国・城郭史研究家)

### 【体験イベント】

#### ①戦国将棋 ―山城攻防 山名対赤松―

日 時：5月4日(金・祝) 13:30～15:00

場 所：当館講堂

定 員：50人(小中学生)

要予約 ☎079-437-5562(学芸課)

参加費：無料

#### ②ペーパークラフト 櫓を作ろう

日 時：6月16日(土) 13:00～15:00

場 所：当館体験学習室

定 員：30人(小学生、当日受付)

参加費：無料

### 【ひょうご考古楽倶楽部の創作紙芝居上演】

日 時：会期中の日曜日と4月21日(土)

5月12日(土)・5月26日(土)・6月2日(土)

時 間：13:00～13:20

場 所：メインホール

### 【展示解説】

日 時：会期中の日曜日 13:30～14:00

※要観覧券

## 開館10周年記念座談会

# 「考古博物館の誕生 ～開館準備担当者たちによる10年前の振り返り～」

平成29年10月13日、考古博物館は10歳の誕生日を迎えました。この記念すべき日に開館準備を担当した関係者が集まり、開館時の紆余曲折を振り返る座談会を行いました。

廃案となった大量の資料や、試作品調査の写真などを持ち寄り、当時の想いを熱く語り合いました。そして、今までにない「新しいスタイルの考古系博物館」がどのようにして生まれたのか、その過程を皆で振り返り、再認識しました。



座談会のようす

## 「発掘プール」の誕生

開館当初から人気コーナーとなった「発掘プール」ですが、この開発には、たくさんの試行錯誤がありました。

「考古学でいちばん楽しいのは発掘。何とかしていつでも発掘を体験ができる場がほしかった。」そんな想いを形にするために、数多くの案を持ち寄りました。地層の堆積をパズルにして、各地層から時代ごとの出土品が出てくる案、出土品の周りを砂で固め、それを掘り出す案、本物の地層をはぎとって使う案、などなど。しかし、それらは実物資料の見学や、試作品を検討する中で、「高度な理解を必要とする」「運営に手間、費用が必要」といった理由から、お蔵入りにになりました。

行き詰まった時、改めて考えたのは、そもそもこのコーナーで何を伝えたいのか、ということ。「遺跡は特別な場所だけにあるのではなく、道路の下や、小学校の下など、身近な場所に広がっている。」「自分たちの足の下には昔のものが埋まっている。」「それをシンプルに体験できる形で伝えたい。」こうした想いが発掘プールのイメージにつながりました。

方向性が決まってからは、出土品を埋める素材選びが始まりました。「砂利、枕の中に入っているビーズ、ウッドチップ、ペット用のトイレの砂など、いろんな素材を試しました。」



変わらぬ人気の「発掘プール」



最終的に、安全性や発掘の雰囲気을考慮し、陸上競技場に敷かれているゴムチップにたどり着きました。それから、出土品や発掘道具を含めた試作品をつくり、イベントなどで試して得られた反省点から、出土品の大きさや形を変更し、プールの規模を大きくしました。さらに、2組が同時に体験できるように間仕切りし、現在の発掘プールが誕生しました。

### 相手をを知る「展示評価」

当館の展示制作で最も効果的だったのは、企画、設計、製作の各段階で展示評価を行ったことです。展示評価の一番の目的は、博物館の利用者がどんな人たちなのかを知ることです。「考古学は一般の人と専門家で意識の落差が大きい」「学芸員が伝えたいことが利用者に伝わっていない」こうした指摘を受け、「両者のギャップを埋めるには展示評価をするしかない」ということになりました。メインターゲットが小学生なら、当然のことです。

こうして、学芸員、展示会社、評価設計業スタッフが一緒になって小学生を対象に展示評価を行いました。毎回驚く結果が得られました。瓦についての調査では「カワラって何？」という子供が多かったため、まず瓦がどういうものを展示する必要が出てきました。その結果、「瓦を運ぶすごろく」のテーブル上に瓦のレプリカを置き、瓦を葺くハンズ・オンや、瓦を葺く職人のジオラマを追加することになりました。



「瓦を葺く」ハンズ・オン展示

他にも、実物の人骨を展示することへの反応、「瓦を運ぶすごろく」のゲームとしてのおもしろさや展示効果、人形流しによる人形への興味付けなど、様々な展示について、展示評価を行い、改良を加えていきました。



展示評価のようす（すごろくの試行）



展示評価のようす（聞き取り）

このような展示評価は、「今後、博物館で何かをする時に展示評価をしないと怖くて作れない」と思えるほど有効で、「展示評価の結果が今の展示のベースになっている」と感じています。また、私たち自身にとっても「ちょっとした機会を見つけて一般の人の声を拾い上げようという意識」の醸成につながっています。

今回の座談会を通じて、当館が何を目指していたのかを再認識することができました。

（当日の詳細な記録は研究紀要に掲載予定です）

（加西分館 事業課長 中村 弘）

県政150周年記念 企画展

# 「ひょうご五国のはじまりを探る」

期間：平成30年7月21日(土)～9月2日(日)

兵庫県を表す言葉として、「五国」という言葉がよく使われます。「五国」とは、江戸時代までの行政区分であった旧国のうち、現在の兵庫県に重なる摂津・播磨・但馬・丹波・淡路の五つの国を指します。これらの国は、古墳時代後期にヤマト王権に従った地方豪族の治めた範囲を基に、律令制度下で地方統治の単位として設置されたものです。

この展覧会では以下の4章に分けて、古墳時代の終わりから奈良・平安時代の出土遺物を中心に五国の始まりを探っていきます。ご期待下さい。



袴狭遺跡出土遺物

- ①古墳築造の終わり…地方官僚の先祖が埋葬された古墳を紹介します。
- ②国の始まり……………古代の役所跡と考えられる遺跡の出土品から、当時の役人達の姿を探ります。
- ③寺の始まり……………古墳に代わって、豪族の権威を表すことになった寺からの出土遺物を紹介します。
- ④交通の始まり……………県内を通る古代官道とそこに置かれた駅家から古代の交通システムを探ります。

(学芸課 鐵 英記)

学芸員が選ぶイチオシ館蔵品

## 家紋を施した三田城の軒平瓦

瓦に家紋をあしらったいわゆる家紋瓦は、現在でも古い町や旧家で見かけることがあります。こういった家を象徴するトレードマークとしての瓦が登場するのは寺院を除くと織豊時代の城郭が始まりと言われ、天正11年(1583)築城の大阪城や天正14年築城の聚楽第などを起源としています。

兵庫県では池田輝政が再築した姫路城の揚羽蝶紋が有名で、大きな蝶羽蝶が天守の軒先に舞っています。

今回紹介する三田城の軒平瓦は天正13年(1585)に入封した山崎家治時代のものです。彼は鉄扇を家紋として用いたようで、後に転封する因幡若桜鬼ヶ城(鳥取県)や丸亀城(香川県)でも鉄扇をあしらった家紋瓦を使っています。

江戸時代の家紋瓦は軒丸瓦に家紋をあしらうことが多いようですが、これは軒平瓦で瓦当文様の中心飾りに控えめな鉄扇を表現しています。ちょっとためらいがちな鉄扇には小大名である山崎氏の心情が表れているようです。



三田城出土の軒平瓦(上)・鉄扇(下)

この資料は、当館メインホールで4月1日(日)～5月31日(木)の間展示します。是非観て下さい。

(学芸課 山上雅弘)



## 古代体験メニューの紹介

## 縄文時代の作り方 ～カラムシってなあに？～

突然ですが皆さん、カラムシって何かご存じですか？カラ“ムシ”ってくらいですから、昆虫かなと思うかもしれませんが。

正解は…植物です！イラクサ科の多年草で山野に自生します。日本では本州、四国、九州～沖縄まで広く分布しています。

縄文時代にはすでに編物が存在し、佃遺跡(淡路市)からは、もじり編みによるヒノキの編物が見つかっています。カラムシも同様に縄文時代には繊維として使われていました。

今回はこのカラムシを使い、縄文時代の編み方でコースターをつくる講座の紹介です。



カラムシで作ったコースター

この古代体験は当日カラムシを刈り取る場所から始まります。カラムシから良い繊維をとるためには、刈り取りから繊維をとる(苧引き)までを一日で終える必要があります。

刈り取ったカラムシは水に浸し、葉をしごき落とし、表皮を縦に剥ぎ取ります。苧引具で外皮をこそげ落とし、繊維のみにします。できあがったもののうち、少量の繊維は染色し、その他の繊維はそのまま、撚りをかけて乾燥させます。乾燥したら「もじり編み」という手法でコースターをつくって完成です。

材料採取から製品の完成までを一貫して行える本格的な古代体験です。ぜひご参加ください。

(学習支援課 足立 望)

## ●古代体験講座

「縄文時代のあみ方でコースターをつくろう！」

●実施日：8月5日(日) 10:00～15:00

●定 員：12名

●対 象：小学4年生～

●料 金：500円

●要予約：6月5日(火)から受付開始

学習支援課

☎079-437-5564まで

お電話ください。

## 東日本大震災復興支援職員現地報告

## 迅速な復興を目指して

平成29年4月から福島県に派遣され、主に浜通り地域(阿武隈高地と太平洋に挟まれた地域)で分布調査や試掘・確認調査を行っています。私以外にも、他県・市・財団から6名の専門職員が派遣されており、福島県職員の方々と協力しながら、業務に当たっています。今年度は、現時点で11ヶ所の遺跡を新たに発見しました。



派遣職員による調査のようす  
(南相馬市湊遺跡)

現在、復興にむけた工事が急ピッチで進んでおり、巨大な堤防や高い盛土、山を切り崩す土取りなど、瞬く間に周囲の景色が変わっていきます。このような中で、見つかった遺跡をなるべく壊すことのないように、また復興のための工事を極力止めることのないように、文化財側と開発側が協力し合い、「各地からの派遣職員を加えた迅速な調査体制」と「工法変更による遺跡の現状保存」という2本柱で、復興にむけた歩みを着実に進めています。

震災当時と比べると、原発事故による規制範囲はかなり小さくなりましたが、未だに住民の方すら入ることができない場所が残っています。また、規制解除になった場所の復興に向けた作業はこれから本格化します。震災発生からまもなく7年目を迎えようとしていますが、福島県の復興はこれからが正念場となってくることでしょう。福島県の復興が少しでも早く進むよう、微力ではありますが、残された期間一生懸命に職務を果たしていきたいと思っています。

(福島県派遣 渡瀬健太)

## イベント

5/4 金祝 **戦国将棋ー山城攻防 山名対赤松ー** 要予約

考古博オリジナルの将棋で戦国時代を体感しよう。

TEL (学芸課直通) 079-437-5562

時間 13:30～15:00 予約 3/4 (火)～

定員 50名 料金 無料 対象 小中学生

6/16 土 **ペーパークラフト 「櫓を作ろう」** 当日受付

石垣に建つ二層の櫓 (やぐら) を紙でつくります。

時間 13:30～15:00 受付 13:00～

定員 30名 料金 無料 対象 小学生

7/28 土 **考古博 DE 夏まつり** 当日受付

楽しい古代体験がいっぱい!

時間 12:30～15:30

料金 無料 対象 どなたでも

8/12 日 **古代の家を作ってあそぼう** 当日受付

段ボールやパネルを使って、中に入って遊べるオリジナルな古代の家を作ります。

時間 13:30～15:00 受付 13:00～

定員 20組 料金 無料 対象 小学生以下 (保護者同伴)

8/1 水 **バックヤード見学ツアー** 当日受付

8/22 水 普段は見る事ができない博物館の舞台裏を案内します。

8/29 水 ①13:30～14:20 } 受付 13:00～  
②14:30～15:20 }

定員 各回15名 対象 どなたでも **【要観覧券】**

8/8 水 **バックヤード見学ツアー こどもスペシャルツアー** 当日受付

小学生向けの特別バージョンです。

13:30～15:30 受付 13:00～

定員 15名 対象 小学生 (保護者同伴可) **【要観覧券】**

**学芸員によるミニ講座** 当日受付

考古博の常設展示の一つを詳しく紹介します。

4/1日・4/8日・4/15日・7/1日・7/8日・7/15・9/9日・9/16日・9/23日・9/30日 13:30～14:00 **【要観覧券】**

**クイズ&スタンプラリー ひょうご五国の謎を解け!** 当日受付

夏季企画展の特別企画。クイズを解きながら館内を巡ります。

7/21土・7/28土・8/4土・8/11土・8/18土・8/25土・9/1土 13:30～15:00 定員 50名 対象 どなたでも **【要観覧券】**

- 「特別展展示解説」は特別展開催期間中の日曜日に実施。13:30～14:00※要観覧券
- 「石棺に入ろう」は毎週土曜日、「古代船に乗ろう」は毎週日曜日に実施。14:30～15:30
- イベントについての詳細情報は当館ホームページやチラシでご確認ください。

## 講演会

13:30～15:00 (12:50 開場) 当館講堂  
※混雑時は開場時間を早める場合があります。定員 120名 [無料]

### 春の特別展

兵庫考古学研究会最前線 2018

4/21 土	兵庫山城探訪へのいざない 山上雅弘 (当館学芸員)
5/12 土	現場中継 洲本城 山上雅弘 (当館学芸員)・金田匡史 (洲本市教育委員会)
5/26 土	現場中継 竹田城 山上雅弘 (当館学芸員)・中川京太郎 (朝来市教育委員会)
6/2 土	登ろう・楽しもう“山城歩き” 西股総生 (戦国・城郭史研究家)
7/7 土	淡路の初期銅鐸群と鉄器工房群ー国生み神話の原郷ー 石野博信 (当館名誉館長)
7/14 土	私の在職中の軌跡ー考古学的見地からー 岸本一宏 ((公財)兵庫県まちづくり技術センター 副課長)
9/15 土	江戸時代における円山川・市川高瀬通船近回り輸送計画 松井良祐 (当館学芸員)
9/22 土	発掘! 兵庫の城館 山上雅弘 (当館学芸員)

## 体験講座

要予約 TEL 079-437-5564 **【学習支援課】**

7/22 日	<b>はじめての土器づくり</b>
時間	10:00～15:00
定員	20名
料金	800円
対象	小4～
予約	5/22 (火)～
7/29 日	<b>キラリ! ガラスまが玉づくり</b>
時間	10:00～15:30
定員	16名
料金	1000円
対象	小学生～
予約	5/29 (火)～
8/5 日	<b>縄文時代のあみ方でコースターをつくろう!</b>
時間	10:00～15:30
定員	12名
料金	500円
対象	小4～
予約	6/5 (火)～
8/19 日	<b>子持まが玉をつくろう</b>
時間	10:00～15:30
定員	10名
料金	500円
対象	小4～
予約	6/19 (火)～
8/26 日	<b>古代の技に学ぶかごづくり</b>
時間	10:00～15:30
定員	10名
料金	500円
対象	小4～
予約	6/26 (火)～

### 毎日できる古代体験

・10:00～12:00 (受付は11:30まで) } 当日受付  
・13:00～15:30 (受付は15:00まで)

**有料メニュー** ミュージアムショップにてキットをお買い求め下さい。

**まが玉づくり**…製作時間: 約1時間  
白: 378円、ピンク: 540円、黒: 540円 (税込)  
**ミニミニ石包丁づくり**…製作時間: 約1時間  
1個 486円 (税込)

**無料メニュー**

**組みひもづくり**…製作時間: 約15分 (対象: 6歳以上)  
**古代の火おこし**…所要時間: 約15分  
土器あわせ・ぬりえ・パズル

※時間には余裕をもって来館下さい。※天候等により体験いただけない場合もあります。※団体は要事前相談。

## 兵庫県立考古博物館NEWS vol.21 2018 Spring-Summer

発行年月日 平成30年3月15日

編集・発行 兵庫県立考古博物館  
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1  
TEL.079-437-5589  
FAX.079-437-5599  
http://www.hyogo-koukohaku.jp/

- 電車をご利用の方/JR土山駅南口から「であいのみち」を徒歩15分  
山陽電車播磨町駅から喜瀬川沿いを徒歩25分
- お車をご利用の方/第2神明・加古川バイパス明石西I.C.から約3km
- 駐車場/町営大中遺跡公園駐車場・野添であい公園駐車場をご利用ください (普通車 1回200円)
- 休館日/月曜日 (祝休日の場合は翌平日)



触れる・体感する、考古学のワンダーランド  
**兵庫県立考古博物館**

